

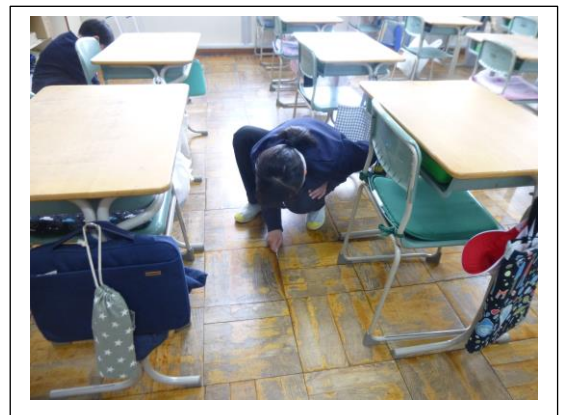
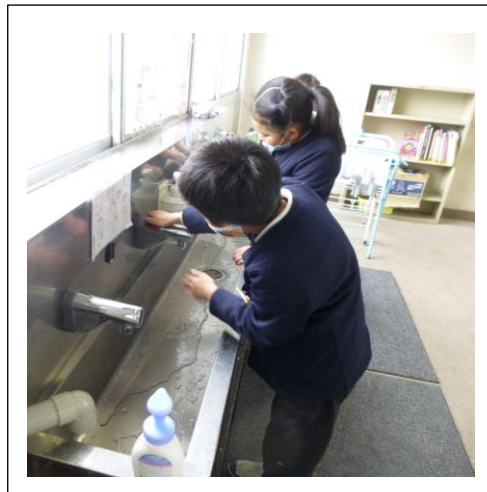
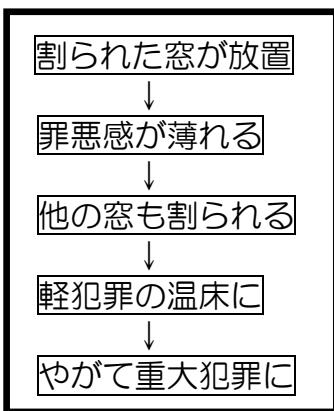
良い習慣を継続しましょう

《清掃活動》

子どもたちは、12月に、『みんなで学校を美しくしよう』という生活目標を毎日意識しながら、15分間清掃活動を頑張りました。全校生が一つの目標に向かって頑張りました。今日から3学期ですが、この良い習慣は、引き続き実行してほしいと思います。

開始時刻を意識し時間を有効に使う力や、学校を美しくするために主体的に活動する力、仲間と共に一生懸命頑張る力等、清掃活動を通して成長が見られました。そして何よりも、環境がよいと気持ちがいいです。

12月7日の学校だより（NO.36①）でも紹介しました『割れ窓理論』を参考にしながら、学校の美化運動の推進に力を入れていきます。



《あいさつ運動》

1学期、2学期と、児童会が中心となり『あいさつ運動』を展開しました。「おはようございます」「こんにちは」「いただきます」「ごちそうさまでした」「さようなら」等々、気持ちを込めたあいさつをするように心がけました。3学期も、学校だけではなく、地域でも積極的に気持ちのよいあいさつを実行してほしいと思います。

平荘っ子のみなさん、『あいさつは 心を結ぶ 合言葉』です。相手の目を見ながら、自分から気持ちのよいあいさつをしていきましょう。

はきもの（くつ・トイレのスリッパ）をそろえましょう

はきものをそろえると 心もそろう
 心がそろうと はきものもそろう
 ぬぐどきにそろえておくと はくどきに心がみだれない
 だれかがみだしておいたら だまってそろえておいてあげよう
 そうすればきっと 世界中の人の心もそろうでしょう

《長野市円福寺の住職・藤本幸邦（ふじもとこうほう）さんの言葉》

靴箱の状態、トイレのスリッパの状態を見ると心の状態がわかります。自分のために、そして、周りの友だちのためにお互いに靴をそろえることを意識しながら、気持ちの良い環境を作っていきましょう。

十二支の由来『寅年が3番目になった理由』

2022年（令和4年）は、十二支の3番目にあたる寅年です。
ところで、十二支では寅年がなぜ3番目になったのでしょうか。
十二支といえば、動物たちの競争の話が有名です。

あらずじとしては、神様が「元日に私の元へ挨拶に来なさい。12着までに来た者たちを、順番に1年間の王様にしてあげよう」というお触れを出し、それを見た動物たちが神様の元へ向かって競争するというものです。

前夜に出発していた牛は最初に神様の家に到着しましたが、開門と同時に、牛の背中に乗っていたねずみが飛び降りて先にゴールしたため、ねずみが1着、牛が2着という結果になりました。

一方、虎をはじめとする他の動物たちは、夜が明ける少し前から神様の元へ出かける準備を始めます。足の速い虎は本来1着で到着してもおかしくはありませんでしたが、やはり開門前に到着していたねずみと牛には勝てず、結果的に3番目の干支となったということです。

地域によって話の内容に多少の違いはありますが、この物語は海外でも共通の言い伝えとして知られています。とはいえ、物語自体は中国で十二支が考案された後に作られたものなので、実際の順番にはあまり関係していないようです。

新年を迎え、子どもたちが気持ちよく3学期をスタートできるように準備をしています。



虎は、その昔、中国では魔除けの神聖な動物として信仰されていたそうです。

日本でもこどもの日に魔除けとして、張り子の虎を飾ったりします。

また、干支の虎は「寅」と書きますが、「寅」という時は「演」からきているといわれています。「演じる＝人の前に立つ」という意味や「延」から「延ばす」という意味を表しているそうです。

このような「人前に立つこと」や「延ばす」という意味から、「寅年」は芽を出したものが「成長していく年」とも言われています。

